第５部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持参ください。

第１８回
毎日パソコン入力コンクール
秋季大会
【課　題】
第５部　和文Ａ　小学生高学年
ことわざ・慣用句②
制限時間５分

【コンクール当日の注意事項】

１．この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
２．団体責任者の指示にしたがい、１８桁の参加番号を半角数字で入力してください。
３．課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館　例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。
（文字数２，２００字程度）

＜課題文章の禁則文字について＞

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のＰＤＦファイルどおりに入力すると正解になります。

主催　毎日新聞社
一般社団法人　日本パソコン能力検定委員会

後援　総務省
文部科学省
厚生労働省
経済産業省 ほか

1行３２字詰で、つぎの文章を入力してください。

※ ↵ の箇所で改行（Enter）してください。

（級表示は、ミスカウント０の場合の入力めやすです）

まんざらでもない ↵

いやではなく気に入っている。↵

絵をほめられてまんざらでもない顔つきをする。↵

↵

顔が立つ↵

めいよが守られる。めんぼくが立つ。↵

金メダルを取り、これで顔が立った。10級↓ ↵

↵

日常茶飯↵

毎日のありふれたこと。↵

↓8級

わが家では昼間は猫一ぴきが日常茶飯だ。↵

↵

伏線を張る↵

後に述べることを前もってそれとなくふれておく。↓5級 ↵

前のほうでさりげなくふれて伏線を張る。↓3級 ↵

↵

登竜門↵

そこを通ると必ず出世できるといわれる、突破するのがむずかしい所。↓準２級 ↵

芥川賞は、作家の登竜門である。↵

↵

ひざを交える↵

へだてなく同席する。ひざをふれあうようにして打ちとけて話し合う。↓２級 ↵

かんきょう問題について大臣と住民がひざを交えて話し合う。↵

↵

きどうに乗る↵

予定通りに、ものごとが順調に進んでいくようになる。準１級↓ ↵

開店後半年たってやっと店がきどうに乗る。↵

↵

胸を打つ↵

強く感動する。人を強く感動させる。心を打つ。↵

厳しい自然の中で必死に生きようとする動物の姿が胸を打つ。↵

↵

歯牙にも掛けない↵

問題にしない。無視して相手にしない。
自信があるのか何を言われても歯牙にも掛けない。

口火を切る

↓ 1級

あるものごとを、いちばん先に始める。
運動会の口火を切って、一年生の徒競走が始まった。

胸を貸す
実力のすぐれている人が、実力のおとっている人の相手をしてやる。
後輩の練習相手になって胸を貸す。

隅に置けない
思ったよりすぐれていたり、よく知っていたりして、ばかにできない。
声がよくて、カラオケがこんなにうまいとは隅に置けないね。

はかが行く
仕事がうまく進む。はかどる。
思いのほか仕事のはかが行かない。

身から出たさび
自分のやった悪い行いのために、自分自身が苦しむこと。
成績が悪いのは努力不足で身から出たさびだ。

我に返る
気がつく。ぼんやりしていた状態から、はっと気がつき、本心に返る。
うとうとしていたら名前を呼ばれて、はっと我に返る。

口が重い
口数が少ない。あまりしゃべらない。
家ではよくしゃべるのに外では口が重い。

口をはさむ
他人の話に割りこんで話す。

ぼくと母との話に、姉が横から口をはさむ。

波長が合わない

気持ちや思いが通じない。
彼とはどうも波長が合わない。

竹を割ったよう

性質がさっぱりしているようす。曲がったところがない。
明るくて竹を割ったような性格の持ち主。

色めき立つ

何かが起こりかけて、人々が急に活気づいたり、あわてたりする。
逆転のチャンスが来て色めき立つ。

背水の陣

もうこれ以上後にひけない立場にたち、決死の覚悟で、全力をつくすこと。
背水の陣で試合にのぞむ。

心に描く

あれこれと思いうかべる。
まだ見ぬ人のことをあれこれ心に描く。

どろぼうをとらえてなわをなう

事件がおきてから、あわてても間に合わない。準備をしないで、行き当たりばったりでするのをいましめることば。
どろぼうをとらえてなわをなうのではなく、ひごろから用意せよ。

けいせつの功

貧しい中で苦労して勉強すること。
けいせつの功なって、見事合格する。

しゅしゃせんたく

多くのものの中から取ったり捨てたりして選び出すこと。
しゅしゃせんたくして五つにしぼる。

電光石火

非常にすばやいこと。

電光石火の早わざ。

実を結ぶ

努力して、よい結果が得られる。

努力が実を結んで、合格できた。

おにの目にもなみだ

情け知らずの冷たい人でも、心を動かされてなみだを流すことがある。

厳しいコーチもおにの目にもなみだで、優勝のしゅんかんに泣いていた。

故きを温ねて新しきを知る

昔の事をよく調べ、そこから新しいものを見つけ出す。

古いものだからとばかにしないで、故きを温ねて新しきを知るを心がける。

筆が立つ

文章がうまい。

小さいころから筆が立った彼女は、後に作家となった。

天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず

人間は生まれた時から平等で、上下の差別はない。

人に上下なんかないよ、天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず。

果報は寝て待て

幸運はあせらずに待っていれば、いつかは自然にやってくるものだ。

あせらずに気長に待とうよ、果報は寝て待てだ。

類は友を呼ぶ

性格や考えの似ている者どうしは、自然に集まって仲間になるものだ

。

類は友を呼んで同好会ができた。

ミイラ取りがミイラになる

人を探しに行ったまま帰って来ない。人を説得に行って逆に説得される。

呼びに行かせたら、ミイラ取りがミイラになって、帰って来ない。

老いては子に従え

年を取った親は、何事も子に任せ、子の言う通りにしたほうがよい。

祖母は老いては子に従えで母にすべて任せている。

息をつめる

呼吸をおさえて、じっとしている。

息をつめて次の投球を見守る。

じゅんぷうまんぱん

ものごとが順調に進んでいるようす。

志望通りの大学へ入ることができて、じゅんぷうまんぱんのスタートを切る。

判官びいき

弱い人・不運な人・敗者に同情して応援する気持ち。

判官びいきで、やはり弱い方を応援するぞ。

舌を巻く

ことばが出ないほど、おどろいたり、感心したりする。

相手選手の見事なわざに舌を巻く。

喉元過ぎれば熱さを忘れる

苦しかったこと、つらかったことや、その時に受けた恩も、過ぎてしまえばけろっと忘れてしまうものだ。

喉元過ぎれば熱さを忘れるで、試験後はまた遊んでばかり。

以心伝心

ことばを使わなくても、気持ちが相手に伝わること。心が通じ合っていること。

以心伝心で、彼女の気持ちはよくわかる。

１行３２字詰で、つぎの文章を入力してください。

※ ↵ の箇所で改行（Enter）してください。

（級表示は、ミスカウント０の場合の入力めやすです）

まんざらでもない ↵

いやではなく気に入っている。↵

絵をほめられてまんざらでもない顔つきをする。↵

↵

顔が立つ↵

めいよが守られる。めんぼくが立つ。↵

金メダルを取り、これで顔が立った。↵ 10級↓

↵

日常茶飯↵

毎日のありふれたこと。↵

わが家では昼間は猫一ぴきが日常茶飯だ。↵ ↓8級

↵

伏線を張る↵

後に述べることを前もってそれとなくふれておく。↵ ↓5級

前のほうでさりげなくふれて伏線を張る。↵ ↓3級

↵

登竜門↵

そこを通ると必ず出世できるといわれる、突破するのがむずかしい所。↵ ↓準２級

芥川賞は、作家の登竜門である。↵

↵

ひざを交える↵

へだてなく同席する。ひざをふれあうようにして打ちとけて話し合う。↵ ↓２級

かんきょう問題について大臣と住民がひざを交えて話し合う。↵

↵

きどうに乗る↵

予定通りに、ものごとが順調に進んでいくようになる。↵ 準１級↓

開店後半年たってやっと店がきどうに乗る。↵

↵

胸を打つ↵

強く感動する。人を強く感動させる。心を打つ。↵

厳しい自然の中で必死に生きようとする動物の姿が胸を打つ。↵

↵

歯牙にも掛けない↵

問題にしない。無視して相手にしない。
自信があるのか何を言われても歯牙にも掛けない。

口火を切る
↓1級
あるものごとを、いちばん先に始める。
運動会の口火を切って、一年生の徒競走が始まった。

胸を貸す
実力のすぐれている人が、実力のおとっている人の相手をしてやる。
後輩の練習相手になって胸を貸す。

隅に置けない
思ったよりすぐれていたり、よく知っていたりして、ばかにできない。
声がよくて、カラオケがこんなにうまいとは隅に置けないね。

はかが行く
仕事がうまく進む。はかどる。
思いのほか仕事のはかが行かない。

身から出たさび
自分のやった悪い行いのために、自分自身が苦しむこと。
成績が悪いのは努力不足で身から出たさびだ。

我に返る
気がつく。ぼんやりしていた状態から、はっと気がつき、本心に返る。
うとうとしていたら名前を呼ばれて、はっと我に返る。

口が重い
口数が少ない。あまりしゃべらない。
家ではよくしゃべるのに外では口が重い。

口をはさむ
他人の話に割りこんで話す。

ぼくと母との話に、姉が横から口をはさむ。

波長が合わない

気持ちや思いが通じない。

彼とはどうも波長が合わない。

竹を割ったよう

性質がさっぱりしているようす。曲がったところがない。

明るくて竹を割ったような性格の持ち主。

色めき立つ

何かが起こりかけて、人々が急に活気づいたり、あわてたりする。

逆転のチャンスが来て色めき立つ。

背水の陣

もうこれ以上後にひけない立場にたち、決死の覚悟で、全力をつくすこと。

背水の陣で試合にのぞむ。

心に描く

あれこれと思いうかべる。

まだ見ぬ人のことをあれこれ心に描く。

どろぼうをとらえてなわをなう

事件がおきてから、あわてても間に合わない。準備をしないで、行き当たりばったりでするのをいましめることば。

どろぼうをとらえてなわをなうのではなく、ひごろから用意せよ。

けいせつの功

貧しい中で苦労して勉強すること。

けいせつの功なって、見事合格する。

しゅしゃせんたく

多くのものの中から取ったり捨てたりして選び出すこと。

しゅしゃせんたくして五つにしぼる。

電光石火
　非常にすばやいこと。
　電光石火の早わざ。

実を結ぶ
　努力して、よい結果が得られる。
　努力が実を結んで、合格できた。

おにの目にもなみだ
　情け知らずの冷たい人でも、心を動かされてなみだを流すことがある。
　厳しいコーチもおにの目にもなみだで、優勝のしゅんかんに泣いていた。

故きを温ねて新しきを知る
　昔の事をよく調べ、そこから新しいものを見つけ出す。
　古いものだからとばかにしないで、故きを温ねて新しきを知るを心がける。

筆が立つ
　文章がうまい。
　小さいころから筆が立った彼女は、後に作家となった。

天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず
　人間は生まれた時から平等で、上下の差別はない。
　人に上下なんかないよ、天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず。

果報は寝て待て
　幸運はあせらずに待っていれば、いつかは自然にやってくるものだ。
　あせらずに気長に待とうよ、果報は寝て待てだ。

類は友を呼ぶ
　性格や考えの似ている者どうしは、自然に集まって仲間になるものだ

。

類は友を呼んで同好会ができた。

ミイラ取りがミイラになる

人を探しに行ったまま帰って来ない。人を説得に行って逆に説得される。

呼びに行かせたら、ミイラ取りがミイラになって、帰って来ない。

老いては子に従え

年を取った親は、何事も子に任せ、子の言う通りにしたほうがよい。

祖母は老いては子に従えで母にすべて任せている。

息をつめる

呼吸をおさえて、じっとしている。

息をつめて次の投球を見守る。

じゅんぷうまんぱん

ものごとが順調に進んでいるようす。

志望通りの大学へ入ることができて、じゅんぷうまんぱんのスタートを切る。

判官びいき

弱い人・不運な人・敗者に同情して応援する気持ち。

判官びいきで、やはり弱い方を応援するぞ。

舌を巻く

ことばが出ないほど、おどろいたり、感心したりする。

相手選手の見事なわざに舌を巻く。

喉元過ぎれば熱さを忘れる

苦しかったこと、つらかったことや、その時に受けた恩も、過ぎてしまえばけろっと忘れてしまうものだ。

喉元過ぎれば熱さを忘れるで、試験後はまた遊んでばかり。

以心伝心

ことばを使わなくても、気持ちが相手に伝わること。心が通じ合っていること。

以心伝心で、彼女の気持ちはよくわかる。